



台風4号(14日14時現在)

○ 円は、暴風域

台風4号を振り返る

県内では6月末から活発な梅雨前線の影響で記録的な大雨が断続的に続き、南大隅町で大規模な土石流が発生するなど、各地で土砂災害が相次ぎ、深刻な被害が起る危険が高まっていました。

鹿屋市でも6月からの総雨量が1300ミリを超え、地盤は極度に緩み、強風によって山崩れや土石流を引き起こしやすい極めて危険な状態になっていました。台風4号は、暴風と豪雨を特徴に持つ、7月としては「観測史上最強クラス」で、台風上陸前に福岡管区気象台は、24時間の雨量が600ミリから800ミリに達すると予測し、大規模な被害が心配されています。

早めの避難が命を救う

大切な人のために避難の呼びかけを



垂水市二川の郵便局など計5戸が全壊した土砂崩れ現場

写真：毎日新聞社提供

た。

しかし、幸いにして、九州上陸前に太平洋高気圧に沿って、進路を東寄りに変えたため、風雨が最も強い台風の東側が長時間、陸地を直撃しなかったことにより、さほどの風雨にならず、鹿屋市では大きな被害に至りませんでした。

自分に限っては大丈夫!?

自分に限っては大丈夫! 過去数十年何事もなかったで自分の家は大丈夫! 起こってからは手遅れです! 避難する勇気が大切です!

危険がせまる前に早めの判断と早めの避難を!

急傾斜地の崩壊

(がけ崩れ・山崩れ)

雨水がしみ込んで、軟弱になった斜面が急激に落ちます。日本で最も多い土砂災害で、人家の近くでも突然起きるため、逃げ遅れて犠牲となる人も多い災害です。



土石流



長雨や集中豪雨などで、山腹や渓流の石や土砂が一気に下流へ押し流されます。強大な威力と圧倒的なスピードで、進行方向にあるものを次々とのみ込み、壊滅していきます。

7月の台風としては観測史上最強の勢力で、14日、大隅半島に上陸した台風4号は、県内各地に大きなつめ跡を残しました。

垂水市では山が崩れ、郵便局と民家計5戸が全壊。東串良町では肝属川沿いの唐仁集落が約70cm冠水し、住家が浸水。鹿児島市や肝付町では、増水した川や側溝に転落した2人が死亡。鹿児島市や志布志市などで、6人が強風で転倒し、頭を強く打ったり、骨折するなどの重軽傷を負いました。

垂水市は、2年続けて災害に見舞われた経験をもとに早めの避難勧告を出し、住民もそれに従った結果、死者を出すことなく、「早めの判断と早めの避難で人命が救われた」結果となりました。

これから秋にかけて、本格的な台風シーズンが到来します。また、台風による豪雨や強風等によって災害が発生する時期でもあります。

災害は、いつ、どこで、どのような形で起こるかわかりません。被害を最小限におさえるためには、何より、日ごろの備えと早めの避難が大切です。

「備えも万全、さあ避難しよう!」と思っても、風雨が強くなってから、また、暗くなつてからでは暴風・豪雨・道路の冠水などにより、身動きが取れなくなつてしまいます。

そうなる前に、隣近所や自主防災組織で協力しあつて早めに避難しましょう。

【テレビ・ラジオの防災情報に注意を】

台風の進路や大雨情報、土砂災害警戒情報など、テレビやラジオなどの情報に

十分注意して、風雨が強くなる前に避難しましょう。

市でも、台風が接近した場合など、災害時の放送に関する協定書に基づき、FMかのや(77.2MHz)で防災情報を放送します。

避難指示や避難勧告があつた時は、直ちに避難しましょう。

また、避難の際は、隣近所に声を掛け合しましょう。

【土砂災害警戒情報に注意を】

大雨や長雨の時は、土砂

災害警戒情報が発表されることがあります。「警報」は土砂災害の発生が非常に高まった時に発表されます。早めの避難のための判断材料となるものです。

【お年寄りなどの避難】

お年寄りや妊婦、乳幼児、傷病者、障害のある人などは、特に避難に時間がかかります。

地域で協力し合いながら早めにかつ、安全に避難させましょう。

鹿屋市防災マップをご活用ください。